Ｈ３０年度　甲斐市立竜王南小学校

校内研究　研究概要

研究テーマ
サブテーマ

１　研究テーマ・サブテーマ

『意欲をもって学び　未来を拓く子供たちの育成』

－「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくりを通して（第２年次）－

研究テーマ
設定理由

２　研究テーマ設定理由

（１）児童の実態や地域の教育課題

児童の実態

本校は新興住宅地に位置しており様々な家庭環境にある児童が在学している。このような地域性や家庭教育力の変化などにより，児童が直面している課題は多岐にわたり，課題解決に向けて柔軟な対応が必要である。学校現場は，児童が一日の大半を過ごす場である。だからこそ児童の一人一人の資質・能力が伸ばされ，集団生活を通じて心身ともに成長を感じられる場でありたい。それには，心の豊かさを下支えとして，学力向上の推進を図り，児童の自尊感情の高まりにつなげられるような日々の教育を行っていくことが不可欠である。学ぶことの意味や学びの楽しさが感じられ，学んでいることの実感・自覚化を促す日々の実践を積み重ねていくことで地域に信頼された学校となるのではないかと考える。

（２）時代や社会の要請

社会の要請

平成３０（2018）年３月に中央教育審議会より報告された「第３期教育振興基本計画について（答申）」では，社会の現状や平成４２（2030）年以降の変化等を踏まえ，取り組むべき課題がまとめられている。具体的には，人口減少・高齢化の進展に伴う就学・就業構造の変化，技術革新やグローバル化の進展に伴う産業構造や社会システムの変化等が挙げられている。グローバル化の進展等によって一つの出来事が広範囲にかつ複雑に伝搬し，社会の変化を正確に予測することがますます難しくなってきており，さらには子供の貧困など格差の固定化，地域間格差など地域課題等も取り上げられていて，児童自身や家庭，学校など児童を取り巻く状況は著しく変化している。

平成２９（2017）年３月に文部科学省から告示された「小学校学習指導要領」の中では，育成すべき資質・能力が掲げられ①知識及び技能が習得されるようにすること②思考力，判断力，表現力を育成すること③学びに向かう力，人間性等を涵養することの三つの柱に沿って整理されている。各教科等の指導では，これら三つのことが偏りなく実現されるよう主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが示されている。学びの質に着目した「主体的・対話的で深い学び」の授業改善が欠かせないということであ

る。これは山梨県教育委員会の「新やまなしの教育振興プラン」で述べている社会を生き抜く力及び甲斐市教育委員会「創甲斐教育推進大綱」で掲げている将来を生きる力の醸成を目指した教育にもつながる。また，新設の学習指導要領前文では，教育の目標の達成をめざしつつ，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められていて，ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）を意識した日常的な教育の必要性を感じる。以上のことから，未来を切り開くために必要な資質・能力を身に付けたり，生涯にわたって能動的に学び続けたりする児童を育成するためにも，主体的・対話的で深い学びに ESD の視点を取り入れた授業づくりに取り組むことが必要であると考える。

目指す児童像

（３）目指す児童像

本校では，児童の実態や地域の教育課題をうけた学校経営方針，及び時代や社会の要請に応えるために，自分の将来を描いて意欲的に学び，自分の将来に繋げ，未来を切り開いていけるような児童の育成を目指す。学校教育目標に掲げられている「進んで学ぶ　みなみの子ども（知育）」「思いやりのある　みなみの子ども（徳育）」「じょうぶで元気な　みなみの子ども（体育）」を具現化するためにも，健康な体と豊かな心を土台とした確かな学力を育成していく。

これらのことを受け，本校では昨年度より 2 年間，甲斐市教育委員会より「確かな学力の育成推進事業」の指定を受ける。

研究の重点

３　研究の重点

昨年度の研究から

（１）昨年度の研究から

昨年度の研究では意欲をもって主体的に学ぶ児童を育成するために「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業改善に取り組んだ。教師集団が３回の研究授業を通して学ぶ意欲の見取りを共有化できたことは大きな成果であった。また，心の涵養，家庭学習の充実も図れるよう，ブロックWG・領域WGを組織し研究を行ってきた。確かな学力につながる道徳的価値の洗い出しを行い，道徳の時間を通して自尊感情や規範意識の高まりを目指し心の涵養を図ってきたが，このことが土台となり，発達の段階や学校段階，地域特性に応じ安全教育と安全管理の両面から学びの環境を整えることにつなげることができた。家庭学習においては，強化週間の振り返りシートから，児童自身も保護者も家庭学習の目標を意識して継続的に取り組んでいく姿勢が身に付いていると感じていることが伺え，一定の成果が感じられた。授業づくりにおいては「意思決定場面」「選択場面」を仕組んでいくことが，主体的な学びを実現させるために有効であることが明らかになり，めあての自覚化をどのように定義するかということについても研究を深めることができた。ブロックWG・領域WGを組織し多方面から広い視野でテーマに迫れたことが深い研究へとつながっていったと考えている。

本年度の方向性

（２）本年度の方向性

ⅰ）授業改善･･･「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに向けて

これまでの本校の実績から一定の有効性が見出された，児童がより主体的に学ぶことができる「意思決定場面」・「選択場面」を仕組む授業づくりに取り組む。合わせて「めあての自覚化」を促すことで学びの必然性をもてるようにし，児童の学習意欲を喚起する。児童の様子から豊かに前向きに学習しようとする姿勢が見て取れるが，その姿勢が個人内に閉じてしまったり，目標のレベルアップに消極的であったりするという傾向がある。だからこそ，授業の中で対話による意見のやり取りを大切に重ねていきたい。そのような過程の中で，対話を通して児童の「比較・関連・総合」していくという思考プロセスがより活性化し，深い学びにつなげていくことができると思われる。また，自分の学びを振り返りながら自分の未来へどのようにつなげていくのかと考える「ライフタイム」を日常的に取り入れていく。児童の意欲を見取る「見取りシート」と合わせ，「児童質問紙」も取り入れ，児童自身が感じている学習に対する意欲もくみ取り，さらに意欲を高めていく材料とする。そこに確かな学力を育成できるような様々な授業改善を図ることで，児童の学ぶ意欲をさらに掻き立てることができると考える。

ⅱ）ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）の視点

新学習指導要領では，「一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と明記されており，ＥＳＤを取り入れた日々の実践が求められているととらえることができる。これまで本校が取り組んできた教育実践は，「代替案の思考力」「データや情報の分析能力」「コミュニケーション能力」「リーダーシップの向上」といったＥＳＤで「育みたい力」（文部科学省）の向上に結びついているものと考えられる。教師自身がＥＳＤに対する知識を整理し，意識した授業を行っていくことで，児童自身に持続可能な社会の作り手になっていく必要性を自覚させていくことができるであろう。さらに，ＥＳＤの視点を取り入れることで，児童はより能動的に，主体的に意欲をもって学習に向かうと考える。本校が追究する意欲の見える化の手立てによってＥＳＤに励む児童の姿をはかっていきたい。

ⅲ）家庭学習

本校の児童は学びに対する興味関心が高く意欲をもっているが，どのように学習すればよいのかということでつまずいている児童が見受けられる。確かな学力を育成するためには家庭との連携は欠かせない。どのように家庭学習すればよいのか，基礎基本の定着が図れるような，そのモデルを示すことで自尊感情の高まりも期待でき，これらが複合的に作用し合って確かな学力が育成されていくと考える。新学習指導要領解説には，「家庭において学習の見通しを立てて予習をしたり学習したことを振り返って復習する機会を設けることなどの取組の重要性が示されている（見通しを立てたり，振り返ったりする学習活動（第１章第３の１の（４））。家庭学習への取組は定着してきているが，今年度は見通し・予習を意識した家庭学習のモデルづくりを視野に入れた研究も進めていきたい。

具体的な研究内容

４　具体的な研究内容

WG	重点活動項目
授業改善	○これまでの実績の確認，改善，実践 ・「意思決定場面」「選択場面」を意識した授業づくり ・「必然性」が感じられる「めあての自覚化」と自分自身の生き方に繋げる「ライフタイム」の日常化 ○体験活動の取組 （総合的な学習の時間・地域と連携した農園活動・校外学習・他学年と連携した取組など） ○効果的な ICT 活用 ○普段の授業のあり方（やまなしスタンダードを取り入れて） ○児童質問紙による児童の実態把握
ＥＳＤ	○ＥＳＤとは ○ＥＳＤの視点を取り入れた授業改善の在り方 ○ＥＳＤ学習会（先進事例から学ぶ・講師から学ぶ） ○ＥＳＤを取り入れた授業の洗い出し
家庭学習	○家庭学習の質的向上 ○意欲的に取り組める基礎基本学習のモデルづくり ○予習を取り入れた見通しをもつ家庭学習のモデルづくり（強化週間） ○家庭学習実践例の収集とその紹介 ○学びの分かるノートづくり ○先進例の紹介や学習会

研究組織

５　研究組織

研究組織については，各自が，学校教育全体をきちんと見渡す分掌を受けもつ中で，自らの担当する学年の児童たちのための研究を推進することができるように，２つのWG（領域WGとブロックWG）へ所属する体制をとる。２つのWG体制をとることで，複数の組織に所属することによって，自分を生かせる場を見つけ，その場において力を発揮することが可能となる。場面場面における力量の違いをカバーしあうチーム力（チームワーク）を大切にした研究の推進を心がけたい。

組織図

校長　金子

研究推進委員会

金子（校長）
進藤（教頭）
小林恵（研究主任）
佐野（授業改善WGリーダー）
久保田（教務主任・ＥＳＤWG リーダー）
上田（研究副主任・家庭学習 WG リーダー）
松橋（高ブロックリーダー）
小池（中ブロックリーダー）
三神（低ブロックリーダー）

全体研究会

リーダー☆ リーダー◎		ブロックWG									
		低学年		中学年		高学年		スタディ	ことば
領域WG	授業改善	◎佐野	藤代 小林恵	細入	☆小池	校長	中込	長野 大辻	渡邉 齋藤
	ＥＳＤ	☆三神	野田	小林浩	◎久保田	☆松橋	丹下 小暮	☆望月	廣瀬
	家庭学習	教頭	岡田	成島	◎上田	山西	栗林	信田	☆高井

６　授業研究の見通し　　－今後の研究の深まり，広がりで変更あり－

〇１学期または２学期にモデル授業１本
〇継続的なアドバイザーの招聘　　できるだけ早い時期に決定

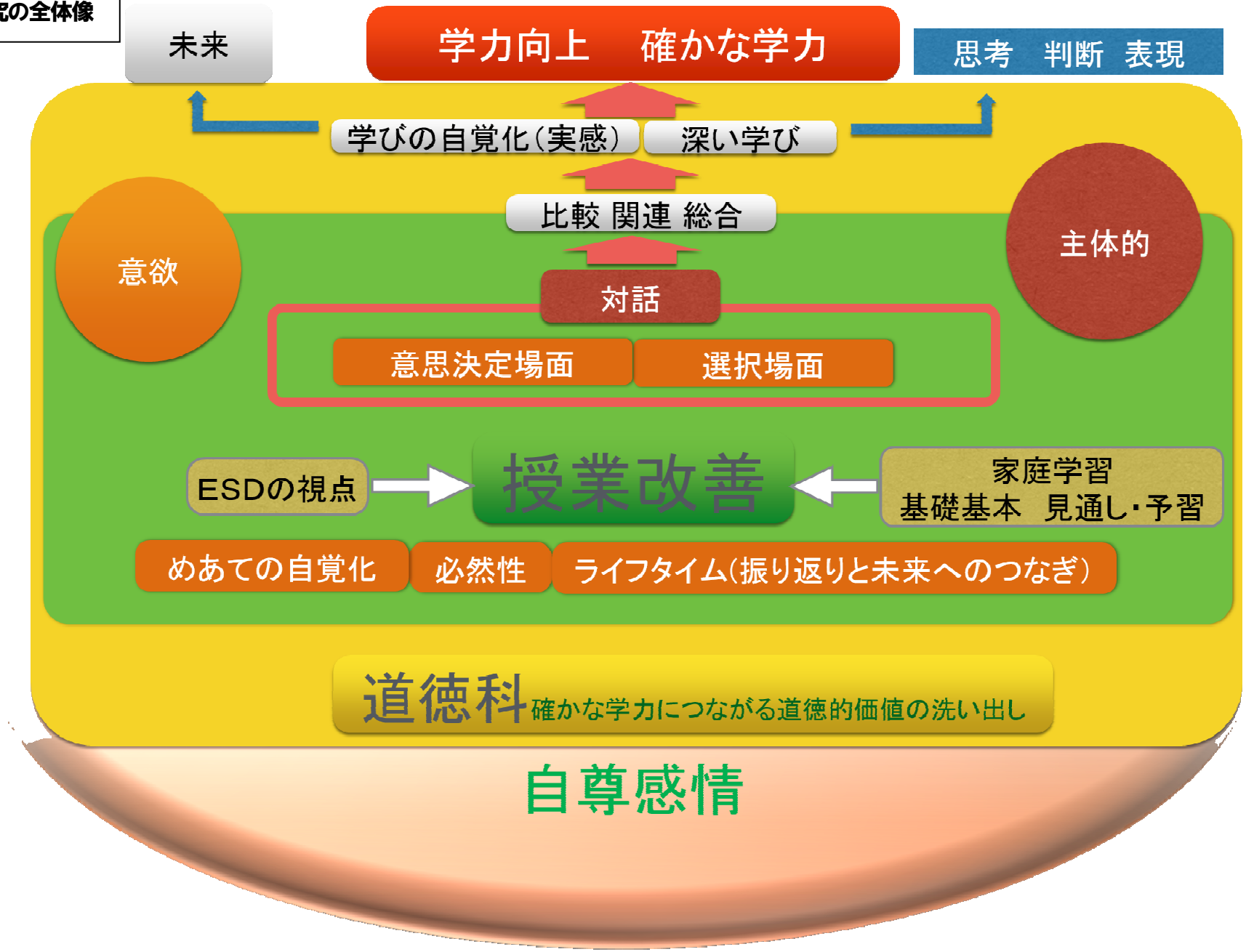
７　年間計画

研究会名	開催日	主な形態	主な研究・活動内容
第１回研究推進委員会	4月 13 日（金）	推進委員会	第１回校内研究会の原案検討
第１回校内研究会	4月25日（水）	全体研	研究の概要　研究の重点　研究組織
第２回校内研究会	5月２日（水）	全体研	ＥＳＤ学習会　児童質問紙記入についての確認
児童質問紙記入	5月7日（月）～11 日（金）で調整		
第３回校内研究会	5月 16 日（水）	領域 WG	今年度の方向性の確認　質問紙集計
第４回校内研究会	6月6日（水）	全体会	ＥＳＤ学習会（講師招聘）
道徳授業参観	22 日（金）　3/4	授業参観	保護者・地域の方向け道徳授業公開１（中）
第５回校内研究会	6月27日（水）	ブロックWG	授業者決定
道徳授業参観	6月 28 日(木)1/2 7月3日（火）5/6	授業参観	保護者・地域の方向け道徳授業公開２（低・高）
第６回校内研究会	7月4日（水）	領域 WG	具体的な活動へ
第７回校内研究会	7月23日（月）	ブロックWG	掲示物　研究授業に向けて
第８回校内研究会	8月 22 日（水）	全体研	役割分担の確認
第９回校内研究会	9月 12 日（水）	全体研	指導案検討
第10回校内研究会	10月 17 日（水）	全体研	モデル授業　〇年〇組　授業者…　　外部講師授招聘
第11回校内研究会	11 月 14 日（水）	ブロック WG	指導案作り
第12回校内研究会	11 月 28 日（水）	全体研	指導案検討
児童質問紙記入	12 月 10 日（月）～14 日（金）で調整		
第13回校内研究会	12 月 19 日（水）	領域 WG	進捗状況の確認　質問紙集計
第14回校内研究会	1月 18 日（水）	全体研	資料作り
第15回校内研究会	1月 23 日（水）	全体研･ブロック WG	最終確認・作業 研究授業　〇年〇組　授業者
公開研究会	1月 25 日（金）		
第16回校内研究会	2月6日（水）	全体研	これまでのふりかえり 研究紀要作成について
第17回校内研究会	2月13日（水）	全体研	スタディ・ことばの実践報告
第18回校内研究会	2月20日（水）	全体研	まとめと次年度の校内研究について
（研究紀要の原稿完成）	2月下旬		紀要原稿印刷所入稿
第 19 回校内研究会	2月 27 日（水）	全体研	（教育課程づくり）

新学習指導要領・道徳科・外国語活動の学習会（随時）還流報告等で

※特別支援・ことばの教室についての研究も合わせて研修していく。
※進捗状況により特設の研究会を設定する場合があります。推進委員会も必要に応じて開いていきます。

研究の全体像


未来
学力向上　確かな学力
思考　判断　表現
学びの自覚化（実感）
深い学び
比較 関連 総合
意欲
主体的
対話
意思決定場面
選択場面
ESDの視点
授業改善
家庭学習
基礎基本　見通し・予習
めあての自覚化
必然性
ライフタイム（振り返りと未来へのつなぎ）
道徳科
確かな学力につながる道徳的価値の洗い出し
自尊感情